

しあわせ便り

令和3年11月25日(木)発行 第9号
2学年主任：市毛 元

どんな言葉を語るか。どんな振る舞いをするか。失敗を笑って許せるか。どれだけ人に優しくできるか。幸せになるとは、そういうことの積み重ねなの。

オードリー・ヘップバーン

進路説明会ありがとうございました



先日は進路保護者説明会へ多数のご参加をいただきありがとうございました。

早いもので、あっという間に中学2年の12月を迎えます。

来年の今頃は進路先を決定している時期です。

高校の文化祭や体育祭への参加が難しい現在、説明会やHPなど、早め早めに情報を得て自分の進路を考えていくことが納得の決断への道です。ご家庭でも今回の説明会を機に進路の話をしてください。

進路を考えるというのは、**単なる高校選びではなく、将来の生き方を考える大事な機会**です。

夢や希望の延長線に、将来の職業を置いていく。

その途中に高校や大学があるかもしれないし、起業や弟子入り、海外留学があるかもしれない。

進路学習とは、大きく言うと「いかに生きていくか」という人生の方針を考える**針路学習**なのです。

義務教育は、きれいに舗装された道が用意されており、自動ドアが開いて、その先にはまた一本道がある、という感じです(しかも、その道は動く歩道だったりする?!)。ところが、1年後は夢や希望、職業、社会といった様々な視点を持ちながら、進むべき路を自分で選び決定していく、ということになります。多くの人が自分と真剣に向き合う初めての経験となるでしょう。そのとき、当然のことながら悩んだり、苦しんだりするでしょう。保護者や教員は、来たるべき「その時」を念頭におきながら、子どもの考えを十分に尊重し、しっかりと受け止め、正面から向き合う支援を協力して行いたいものです。我々大人は、子どもたちにとってよき教育者であり、よき理解者、よき相談者でありたい。そう思います。

進路は子どもが進みたい路を自己決定する、ということに大きな意義があります。

周りが決めることではなく、自分の考えを持つということです。また、その自己決定が独りよがりではなく、保護者の思いも尊重していて、さらには家庭の経済状況等も含めて決定していくことが大切です。こういった一つ一つの思考・判断が、広い視野に立った進路へとつなげていきます。

そのために我々は、自分で考えるための材料を提供し、自分で判断できる力を育てていきたいです。

その先に、**自信をもって学び続け、粘り強く挑戦していく人**へと育った姿があることを願って。